

平成23年度 おけさ柿病虫害防除暦（長畝地区おけさ柿生産組合）

エコファーマー対応防除暦となっているので、1回目防除（ファイブスター顆粒水和剤）は必ず実施すること。

【表示されている農薬の使用基準は平成22年9月現在の登録内容です】

J A 佐渡 営農部園芸販売課

回数	散布時期	主な対象病虫害	10a散布量%SS散布	薬剤名又は展着剤	散布濃度	収穫前使用時期	使用回数	水100Lあたり薬量	1,000リットルあたり薬量	10aあたり薬量	備考欄（使用上の注意など）						
1	3月上中旬 (休眠期)	コナカイガラムシ類	200	ハーベストオイル	50倍	発芽前	-	2%	20%	4%	・発生園では必ず散布する。粗皮けずり後に散布すると効果が高い。						
2	5月中旬 (発芽期)	ハマキムシ類	250	②ファイブスター顆粒水和剤	1,000倍	前日	-	100 g	1,000 g	250 g	・ファイブスター顆粒水和剤は生物農薬であるため、殺虫効果が現れるまで期間を要するが、食害には効果は早く現れる。ハマキムシ類の発生初期に散布する。						
				①展着剤(ネオエステル)	20000倍	-	-	5 ml	50 ml	13 ml							
3	5月下旬～ 6月上旬 (開花直前)	カキタアザミウマ チャノキアザミウマ	300	③オルトラン水和剤	1,500倍	45	2	67 g	670 g	201 g	・アザミウマ類の飛来時期となるので、散布時期が遅れないように注意する。 ・落葉病の感染期に入るので、散布ムラがないようにたっぷり散布する。						
		落葉病・うどんこ病		②ベルコート水和剤	1,000倍	14	3	100 g	1,000 g	300 g							
		灰色かび病・すす点病		①展着剤(ネオエステル)	20000倍	-	-	5 ml	50 ml	15 ml							
4	6月中旬	アザミウマ類・ハマキムシ類・フジコナカイガラムシ	350	②トクチオン乳剤	1,000倍	75	2	100 ml	1,000 ml	350 ml	・徒長枝はアザミウマ類の発生を助長するので、こまめに取り除くこと。 ・落葉病の感染期なので、散布ムラがないようにたっぷり散布する。						
		落葉病		①2-10式ボルドー	生石灰	-	-	1,000 g	10,000 g	3,500 g		硫酸銅	-	-	200 g	2,000 g	700 g
5	6月下旬	カミシ類 カキタアザミウマ	300	③モスピラン水溶剤	4,000倍	7	3	25 g	250 g	88 g	・落葉病の感染時期のため散布ムラのないように散布する。(雨天時の散布は葉が落ちたりする被害を生じおそれがあるので、できるだけ避ける) ・6月下旬以降、フジコナカイガラムシ防除適期となるので、多発園ではオリオン水和剤40の1,000倍液を単用散布する。						
		チャノキアザミウマ		①2-10式ボルドー	生石灰	-	-	1,000 g	10,000 g	3,500 g		硫酸銅	-	-	200 g	2,000 g	700 g
		落葉病		②展着剤(ネオエステル)	20000倍	-	-	5 ml	50 ml	18 ml							
6	7月上旬～ 7月中旬	カキタアザミウマ、フジコナカイガラムシ	300	③オルトラン水和剤	1,000倍	45	2	100 g	1,000 g	350 g	・オルトラン水和剤は2回までの使用限度、注意！！ ・落葉病の感染時期のためボルドー散布は必ず実施する。(雨天時の散布は葉が落ちたりする被害を生じおそれがあるので、できるだけ避ける)						
		チャノキアザミウマ カキハナムシ		①2-10式ボルドー	生石灰	-	-	1,000 g	10,000 g	3,500 g		硫酸銅	-	-	200 g	2,000 g	700 g
		落葉病		②展着剤(ネオエステル)	20000倍	-	-	5 ml	50 ml	18 ml							
7	7月下旬	カミシ類・アザミウマ類 フジコナカイガラムシ	300	③スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	前日	3	50 g	500 g	150 g	・高温時の散布は、葉への被害が懸念されるので、日中散布を避ける。						
		落葉病 すす点病 炭疽病		②オーソサイド水和剤	1,000倍	7	5	100 g	1,000 g	300 g							
		①展着剤(ネオエステル)		20000倍	-	-	5 ml	50 ml	15 ml								
8	8月中旬	カミシ類 フジコナカイガラムシ	300	②スプラサイド水和剤	1,500倍	30	3	67 g	670 g	201 g	これ以降の防除では展着剤は使用しないこと（果実への薬斑のおそれがあるため） スプラサイド水和剤は収穫前30日なので注意！！！！						
		落葉病 すす点病 炭疽病		①ストライド顆粒水溶剤	3,000倍	14	4	33 g	330 g	116 g							
9	9月上旬	カミシ類 チャノキアザミウマ フジコナカイガラムシ	300	②テルスター水和剤	2,000倍	14	2	50 g	500 g	150 g	周辺に水稻がある場合は農薬が飛散しないよう十分に注意すること！						
		落葉病・すす点病 炭疽病		①オーソサイド水和剤	1,000倍	7	5	100 g	1,000 g	300 g							

(注1) 農薬の登録外使用は法律で禁止されています。上記以外の農薬使用についてはJA、関係機関にご相談ください。
 周囲作物への農薬飛散防止に努めましょう。(柿以外の農産物に農薬がかからないよう注意しましょう)
 周辺にタバコ・養蚕がある場合は、対象農家と事前に協議してください。
 農薬使用については、容器等にあるラベルの内容を確認・遵守し行うこと！
 散布作業はマスク、手袋等安全防除衣を着用するとともに、無風の涼しい日に実施しましょう。
 防除は生育や病虫害の発生予察に注意して適期におこないましょう。
 園地環境（防風樹の整備・草刈りの徹底）をよくしましょう。

(注2) 薬剤混用の順序(通常) 水 → 展着剤 → 乳剤 → フロアブル剤 → 水和剤
 ※ボルドー液の場合はボルドー液調製後に展着剤→殺虫剤の順に混用する

(注3) 展着剤使用基準と上記「備考欄」に記載された農薬使用基準

展着剤・農薬	展着剤及び農薬名	使用倍率(倍)	100リットルあたり使用量	収穫前使用時期	総使用回数
展着剤	ネオエステル	20,000～5,000倍	5ml～20ml	-	-
殺菌剤	ストロビロライフロアブル	3,000倍	33g	14日	3回
殺菌剤	オンリーワンフロアブル	2,000倍	50ml	14日	3回
殺菌剤	スバットサイド水和剤	2,000倍	50g	14日	4回
殺虫剤	スプラサイド水和剤	1,500倍	66g	30日	3回
殺虫剤	テルスターフロアブル	3,000倍	33ml	3日	2回
殺虫剤	トクチオン水和剤	800倍	125g	75日	2回

(注4) 2-10式ボルドー液の調整について
 (ボルドー液100リットルの調整の場合)

手順1 小桶(熱で溶けない桶)を準備する。
 そこに水を少量入れ生石灰を少しずつ入れ、1kgの生石灰を溶かす。(発熱するので、消化するまで待つ)消化したら薬液タンクに移し、水を加え20リットルの生石灰液とする。

手順2 別の大桶を準備し、200gの硫酸銅を水に溶かし水をさらに加え80リットルの硫酸銅液をつくる。

手順3 手順1で作った薬液タンクに入った生石灰液に手順2で作った硫酸銅液を攪拌しながら少しずつ加えて調合する。
 (注意) このとき必ず生石灰液に硫酸銅を入れること逆に入れないよう注意する!(凝固するため)

※ボルドー液はその日のうちに使用すること、時間がたつと変質してしまいま